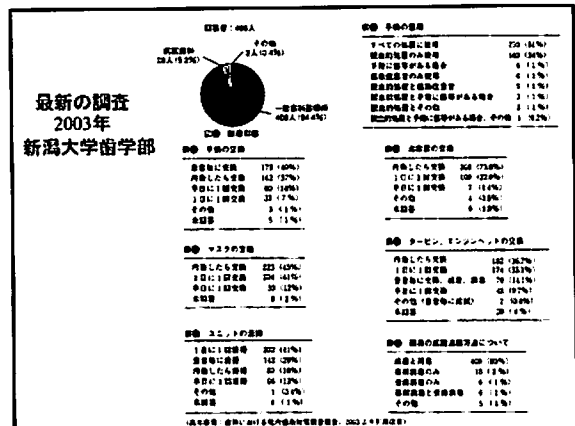


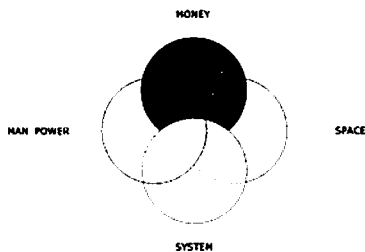
日本口腔感染症学会 シンポジウム講演

医療法人社団南生会生田歯科医院理事長 生田 國南

一般診療における院内感染予防対策



院内感染防止対策に必要な4つの要素



MONEY

- 資金の捻出
- 滅菌を始める前に資金調査
- 何処まで投資できるのか
- 借入れを起こすのか？
- お金がないときはできるところから
- 効率的な投資
- 無駄なモノを買わない

MAN POWER

- 現在の人員でできるのか
- 人員は効率的に配置されているか
- 滅菌専任をおかなければならない規模か
- 無理をさせてはいけない
- 滅菌に誇りをもたせる
- うちが一番と思わせる
- 人は人財である

SYSTEM

- 資金と人員があってもシステムがなければうまくいかない
- 効率的なシステムとは
- どこから始めればよいのか
- どこまでやればよいのか
- 誰がどのようにシステムを運営するのか

SPACE

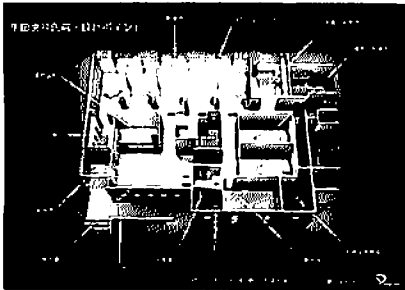
- 滅菌・消毒を行うのに十分なスペースは確保できるのか
- 既存の施設でどう改造するのか
- 余裕のあるスペースはあるか
- 排気の問題は大丈夫か
- 効率的な場所にスペースが確保されているか
- 拡大の余地はあるのか

生田歯科医院のシステム

- 保険診療の中で何処まで可能かを追求
- 口腔内に入る器具はすべて滅菌
- 滅菌専任を2名雇用している
- まともに滅菌を行うと資金的に行き詰まる
- 有りとあらゆる部分で経費の削減を行う
- 経費削減したお金を滅菌につぎ込む
- 医院経営ができるだけの収益を得る
- 再投資を行い、次の目標をクリアする

設計のポイント

湿気・腐食等に強く掃除がしやすい構造・素材で工夫する(水洗いできたらベスト)なるべく安い厨房機器などを多用し建設コストを下げる

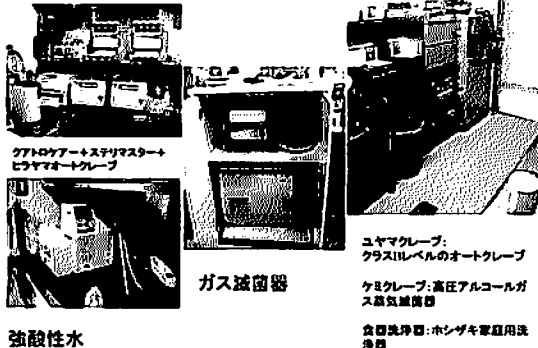


当院の滅菌・消毒室

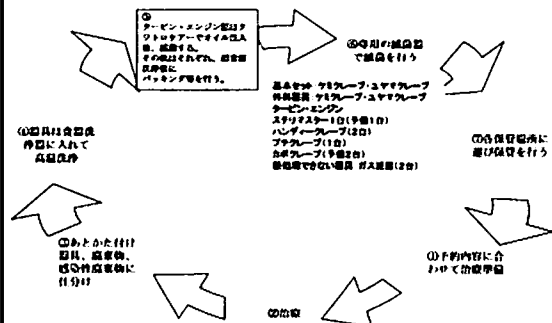
広さ3.5坪
コンクリート床
水洗いOK
厨房機器を多用して
建設コストを下げている。



当院の滅菌・消毒室



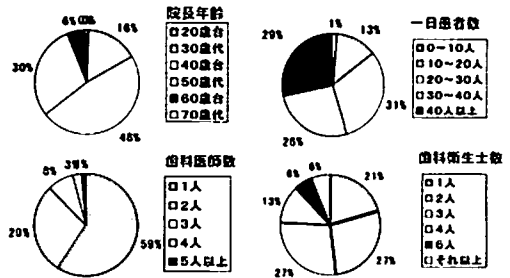
生田歯科医院における院内感染防止対策の流れ



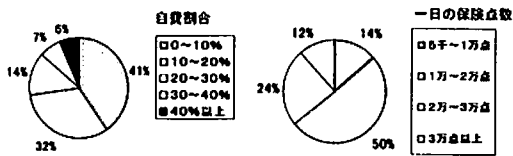
滅菌アンケートを通してわかったこと

- 2006年9月生田コース受講者2000名に院内感染防止対策アンケートを送付
- 220名の先生からアンケート回収
- アンケートを分析
- 考察を行う

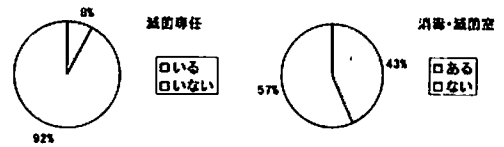
歯科医院の経営情報



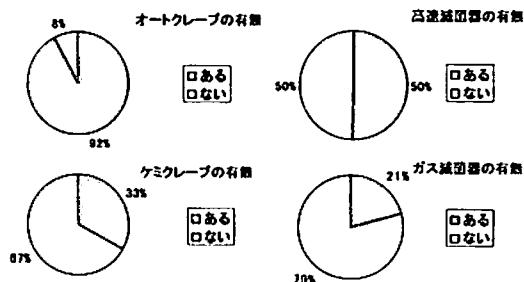
歯科医院の経営情報



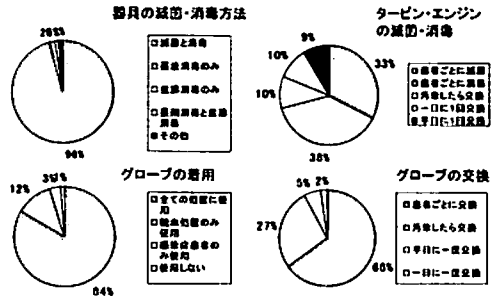
滅菌・消毒設備状況

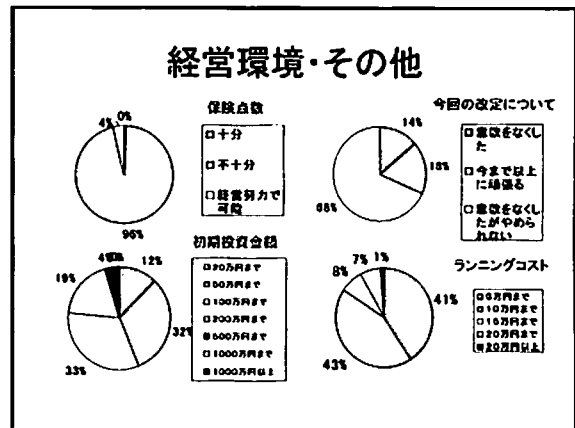
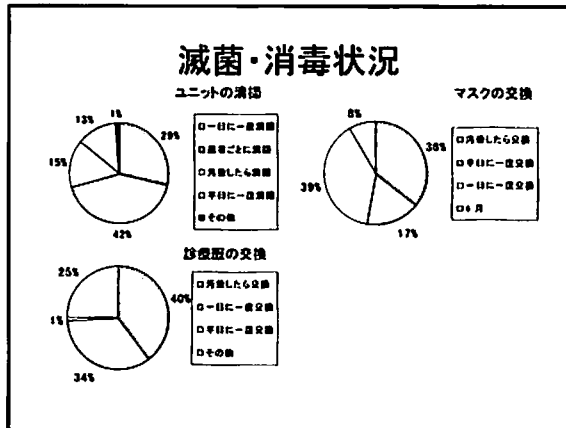


滅菌・消毒設備状況



滅菌・消毒状況





考察

- 講習会受講者は滅菌に関する意識が高い
- 現状で滅菌を行うのは非常に厳しい
- 特に2006年4月の改定後は更に環境が厳しくなっているが、歯科医師の良心で何とか頑張っている状況である
- 初期投資は100万円以下であれば可能
- ランニングコストは10万円以下に抑えないと経営的に厳しい

理想的と思われる滅菌システムを考察

- 口腔内に入る器具をほぼすべて滅菌できる
- 環境に優しい: 排気、排水が安全
- 安価である
- ランニングコストが安い
- タービン・エンジン類を低温滅菌できる(故障頻度が少なくなる: ランニングコストが下がる)

現在考えられる理想のシステム

プラズマ滅菌器+高速オートクレーブ

問題点

1. プラズマ滅菌器は高い
2. プラズマ滅菌器はランニングコストが高い

解決策

1. 安いプラズマ滅菌器を開発して欲しい
2. プラズマ滅菌器のランニングコストを下げて欲しい
3. 台数ができれば採算に乗るので安くできる。